

YESTER

TO DAY

MORROW

平成 **27** 年度

大 阪 新 美 術 館

建 設 準 備 室

連 携 事 業 報 告 書

大阪新美術館建設準備室が連携事業に取り組み、早くも3年が経過しました。
この3年は美術館と地域、そして美術館と利用者との関係を、
あらためて考える期間でした。

3年間積み上げてきた気づきと悩み、成果と経験、さらにさまざまな課題は、
実現に向けてその歩みを進める美術館整備計画の糧になるものです。

美術作品や資料の収集保存、研究、そして展示公開は、
美術館の存在を支える大切な意義であることに変わりはありません。
しかし、大阪新美術館は、美術館を作品や鑑賞者の単なる「受け皿」でも、
展覧会や情報の一方的な「送り手」でもなく、新たな出会いや楽しみが
生まれる「発見ときっかけの場」であり、画期的なアイデアや交流が育まれる
「創造と可能性のプラットフォーム」にしたいと考えています。
従来の「教育普及」ではなく、あえて選んだ「連携」という言葉のなかには、
こうした思いとこれまでの活動に対する反省がこめられています。

過去の創造を守り、未来の創造へとつなぐ「手」としての美術館 —
美術館の資源である作品と学芸員を、美術館の扉の外へ開き、
地域の資源である歴史、産業、人々とその営みを、扉の内へと呼び込み、
ヒト・モノ・コトの多様な融合が美術館活動を深め、広げる
新しい美術館像の提示に、大阪新美術館はチャレンジしていきます。

なお、この連携事業は、来年度より整備事業の本格化にともない縮小し、
大阪新美術館建設準備室は、開館後の新体制や計画づくりへと軸足を移します。
これまでご支援、ご協力いただきましたみなさまに、ここにあらためて
お礼を申し上げますとともに、今後、新しい美術館の開館までの動向に、
ぜひともご注目いただきたく、お願い申し上げます。

平成28年3月

大阪新美術館建設準備室

市民キュレーターワークショップ

平成27年10月17日(土)―平成28年12月27日(日)
共 催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター
助 成：一般財団法人 地域創造

〈こどもとアート〉の現場を考える

- ▶ **こどものためのワークショップ ― キッズ！ファンタスティック☆ミュージアム**
平成27年8月26日(水) 10：30―12：30 | 14：00―16：00
- ▶ **トーク&ディスカッション ― 〈こどもとアート〉の現場のつくりかた**
平成27年8月29日(土) 13：00―16：30
共 催：大阪府立江之子島文化芸術創造センター
助 成：一般財団法人 地域創造

〈地域と生きるデザイン〉ワークショップ

- ▶ **長吉六反中学校ワークショップ ― 長吉中央商店街 × 建築家・編集者・グラフィックデザイナー**
平成27年6月22日(月)・7月6日(月) | 7月3日(金)・10日(金)
- ▶ **公開ディスカッション ― デザインのきのうとあした：デザインワークショップの可能性**
平成27年12月12日(土) 13：30―18：00
共同主催：クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町
助 成：一般財団法人 地域創造

区役所連携／新美術館×図書館わくわくコラボ

- ▶ **〈Wikipedia ARTS〉大阪新美術館コレクション**
平成27年8月30日(日) 13：00―17：00
主 催：大阪市立中央図書館
協 力：大阪新美術館建設準備室
- ▶ **住吉あらかると ― 今井祝雄ワークショップ「子どもと大人の対面画」**
平成28年1月30日(土) 14：00―16：00
- ― **今井祝雄トークショー「アートの感性を育む生きかた」**
平成28年1月31日(日) 14：00―16：00
共同主催：大阪市立住吉図書館
協 力：大阪市住吉区役所
助 成：一般財団法人 地域創造
- ― **〈滝川雅弘 Duo〉ジャズコンサート**
平成28年1月31日(日) 13：00―13：40
主 催：大阪市住吉区役所
協 力：大阪新美術館建設準備室、大阪市立住吉図書館
- ▶ **あべの学セミナー ― 菅橋彦の世界：阿倍野ゆかりの日本画の巨匠**
平成28年3月6日(日) 14：00―16：00
共同主催：大阪市立阿倍野図書館

市民キュレーターワークショップ

展覧会を「観る」から「つくる」へ——市民が展覧会のつくり手になることによって、新しいアートの楽しみ方を探り、美術館により深く、より積極的にかかわる機会。展示コンセプトや空間配置の検討、パネルやチラシの原稿作成、そして実際の作品展示、来場者への解説といった展覧会制作プロセスの多様なステップを体験するプログラムである。

公募で選ばれた5人の市民キュレーターが、約7,800点にのぼる大阪府20世紀美術コレクションのなかから「これぞ」と感じた作品を選び、それぞれ独自の展示空間をつくりあげた。

ワークショップ

オリエンテーション（10月17日）

学芸員らスタッフとの顔合わせの後、過去の展示の紹介、コレクションの概説、展示ブースの割り振り、展覧会メインタイトルの検討と決定といった、ワークショップを始める上での基本的な事項の確認や話し合いが行われた。



コンセプト作り、展示作品選び（10月20日—11月4日）

学芸員と話し合いながら、コレクションについてさらに詳しく調べ、展示作品を選んでいく。作品数は、数点から二十数点と、市民キュレーターによって様々であった。



中間発表（11月7日）

この日までに練りに練った展示作品やコンセプト案を、画像や展示図面、マケットなどを使ってプレゼンテーション。先輩市民キュレーターや学芸員が加わり、ブラッシュアップのための意見交換も活発に行われた。



展示内容の決定、会場パネル制作や広報

展覧会づくりも大詰め。展示タイトルや作品の最終決定、会場パネルのテキスト執筆など、展覧会開幕に向けて準備を進めた。告知チラシが印刷され、市民キュレーターも積極的に広報活動に取り組んだ。

作品展示作業（12月13日—14日）

美術品取扱いを専門とするプロの作業員とともに作品を展示。作品保管箱を開け、作品の展示位置を決め、パネルを壁に貼りつけと、会場を動き回る市民キュレーター。作品の実物を見るのはこの時が初めてで、その大きさや迫力に驚く場面も。



展覧会開催、ギャラリートーク（12月23日）

ワークショップの成果である展覧会は広く一般に公開。会期中にはギャラリートークを実施し、市民キュレーターは自らつくりあげた展示空間のなかで、展示内容やそれにまつわる思いについて来館者にじっくり語った。



作品撤収作業、振り返り（12月27日）

あっという間に展覧会閉幕。そして作品を撤収。作品の梱包や、脚立にのぼって金具を外す作業を終え、これまでの活動を振り返るミーティングを行った。「展覧会の裏側を体験できて良かった」「『伝えること』の大切さや難しさを知った」「途中でくじけそうにもなったが、頑張って展示を完成できて嬉しい」といった声が市民キュレーターから寄せられ、年の暮れ、長いようで短かったワークショップが締めくくられた。



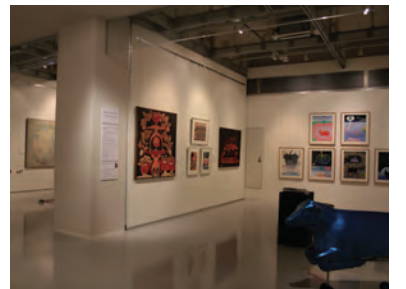
展覧会

「あなたをうつす5つの鏡 — 5人の市民キュレーターによる 大阪府20世紀美術コレクション展 —」

会期：平成27年12月15日(火) — 12月26日(土)

会場：大阪府立江之子島文化芸術創造センター ルーム1

展示作品総数：60点



■赤ちゃんが見ている世界 企画：岩城遥

■楽しんで癒されたい ～感性を刺激する色と動物～
企画：杉浦友子

■余白の時間 企画：西山佐和

■シンプル ～作品は見る人によってできあがる～
企画：武藤祐二

■Hungry ? Come feed yourself !

～腹ペコ? 食べにいらっしやい～ 企画：森川佳奈



市民キュレーターワークショップを終えて

市民キュレーターワークショップを通じて、自己表現の楽しさを実感したとの声が参加者の多くから上がった。アートには生活の質を高める力があり、本ワークショップもその力を引き出しうるとあらためて認識した。展示内容を決めるのは参加者だが、「やりたいこと」を引き出しかたちにするための「対話」の役割は大きく、市民キュレーターとのコミュニケーションをどのように充実させるか、工夫と検討の必要を感じる。本ワークショップの成果をより大きく広げるには、展覧会の集客が欠かせない。今回改めてその大切さと難しさを実感しており、今後も努力を重ねたい。（学芸員 清原佐知子）

市民キュレーターワークショップ関連イベント

「先輩市民キュレーターによる アーティストインタビュー」(先輩市民キュレーター企画)

実施者×アーティスト：

中家祥裕(1期生)× 藤浩志(美術家)

林紀行(3期生)× 安井寿磨子(銅版画家)

木村優介(4期生)× paranel(画家、映像作家、音楽プロデューサー)

成果発表として、インタビュー映像を展覧会場にて上映

(平成28年4月 大阪府立江之子島文化芸術創造センターで再上映予定)



「中之島まちあるき —— わたしのオススメ アートスポット」(先輩市民キュレーター企画)

平成 27 年 12 月 5 日(土)

実施者：池口登美子(2期生) & 木村優介(4期生)

参加者：6名

まちあるきルート：

YODギャラリー ➡ ブレーンセンタービル(新宮晋) ➡

京阪天満橋駅(今井祝雄) ➡ 中之島三井ビル(ジェニー・ホルツァー) ➡

中之島ダイビル(関根伸夫) ➡ 新美術館建設予定地 ➡

リーガロイヤルホテル(小出楯重、小磯良平)

トークイベント 「市民がアート事業をになうこと、とは」

平成 27 年 12 月 23 日(水・祝)

会 場：大阪府立江之子島文化芸術創造センター ルーム8

ゲスト：佐藤啓子(木津川アートプロジェクト総合プロデューサー)

参加者：41名

市民キュレーターワークショップの「これから」

今回で市民キュレーターワークショップが5回目を迎えることを記念し、関連イベントを開催。これまでのワークショップ参加者からアイデアを募り、企画から実施まで再び市民が主体となる「インタビュー」と「まちあるき」を実施した。また、トークイベントとして、これまでのワークショップとその成果である展覧会を担当学芸員が総括するとともに、市民がボランティアとして積極的に事業の担い手となり成功をおさめている、地域型アートプロジェクト「木津川アート」の取り組み事例を、佐藤啓子さんに語ってもらった。これらの関連イベントを通じて実感するのは、「アートを語る市民の言葉」が強い力を持っていることである。美術館の学芸員とは立場や視点が異なるものの、作家や作品に出会い、心を動かされ、それを伝えたいと思う強い気持ちは重みがあり、他の人の心を動かすのである。このような言葉を発する場、思いをつなぎ活動する場を、これからも作っていきたい。

(学芸員 高柳有紀子)

アートフォーラム 〈こどもとアート〉の現場を考える

美術作品と学芸員という資源を有する美術館の新たな活用と活動の可能性 —— これを探る試みがアートフォーラム「〈こどもとアート〉の現場を考える」である。こどもを対象としたワークショップと、大人に参加を呼び掛けるトーク&ディスカッションの2部構成にすることで、ワークショップの現場を直接議論につなげ、また議論を議論のみに留めない行動とコミュニケーションをめざす。〈こども〉に関わる人々と〈アート〉に携わる人々が、さまざまな立場から情報と意見を活発に交換する場となった。

ワークショップ「キッズ! ファンタスティック☆ミュージアム」

平成 27 年 8 月 26 日(水)

講師：岡田可斗子(キッズプラザ大阪 ミュージアムエディケーター)

対象・参加者：

小学1 — 4年生 22名(午前の部)

小学4年生 — 中学生 2名(午後の部)

会場：大阪府立江之子島文化芸術創造センター ルーム1

ワークショップ協力：キッズプラザ大阪



ワークショップがめざすもの

こどもたちが作品鑑賞と創作活動を通じて感性を磨き創造力を高めるとともに、本物の美術作品と出会い、身近に感じるきっかけとした。また、〈こども〉の専門機関であるキッズプラザ大阪と連携。対象年齢別の問いかけや創作内容にするなど、こどもたちにとって入りこみやすく印象に残るプログラムをめざした。



ワークショップの内容

対話型鑑賞：

こどもたちがグループごとに金光松美の抽象絵画（大阪府20世紀美術コレクション）を鑑賞。ナビゲーターの誘導で、「見えるもの」や「感じたこと」「思ったこと」を発表しあった。



創作活動：

午前の部（低学年対象）では針金を使って人形を制作、絵画を鑑賞する人をミニチュアで再現した。

午後の部（高学年対象）では絵具の流し込みによる抽象画を制作した。

発表および作品解説：

こどもたちが制作した人形や抽象画を発表するとともに、学芸員が作品のタイトルや技法、作者などについて説明し、保護者を含む全員で作品を鑑賞した。



トーク&ディスカッション「〈こどもとアート〉の現場のつくりかた」

平成 27 年 8 月 29 日(土)

ゲスト：

清水文美(ひとはく連携グループrun♪run♪plaza主宰、こども☆ひかりプロジェクト代表)

上田信行(同志社女子大学現代社会学部現代こども学科特任教授、ネオミュージアム館長)

対象・参加者：こどもやアートに関心のある方 27名

会場：大阪府立江之子島文化芸術創造センター ルーム1

トーク&ディスカッションがめざすもの

「〈こどもとアート〉の現場のつくりかた」をテーマとし、〈学びの場づくり〉の最前線で活躍するゲストの実践例を紹介。参加者が新たな知識や刺激を得るとともに、意見や情報を交換しあうことで、参加者同士のネットワークづくりや今後の積極的な連携へとつなげることをめざした。



トーク&ディスカッションの内容

清水文美さん：兵庫県立人と自然の博物館でのボランティア経験から連携グループrun♪run♪plazaを立ち上げ、こどもたちと博物館をつなぐ様々なイベントを企画。東日本大震災をきっかけに、全国のミュージアムが東北のこどもたちへ笑顔と夢をとどける「こども☆ひかりプロジェクト」を設立。



「学芸員の知らないミュージアムの魅力と可能性」

東日本大震災の復興支援として、全国のミュージアムと協力してこども向け事業を展開する「こども☆ひかりプロジェクト」の実践や、兵庫県立人と自然の博物館と連携したこども向けイベント等自身が携わる様々な活動を紹介。ミュージアムとこども、その間をつなぐユースタッフの育成など、人と人がつながることの魅力と可能性を語った。

上田信行さん：『セサミストリート』に刺激を受け、ハーバード大学教育大学院等で認知心理学と教育工学を専攻。教育学博士 (Ed.D.)。「プレイフル・ラーニング」をキーワードに、学習環境デザインとラーニングアートの先進的な教育を実践。平成2年には実験的アトリエ「ネオミュージアム」を奈良・吉野に設立。



「まなびはアート！」

知識を受け取る第1段階から、自身の境界を破壊しながら成長する第4段階までの「学びの風景」論などを提示しながら“学び”を理論的に解説。学びは驚きであり、楽しさの中にこそ学びがあふれていること、楽しむ状況を空間や道具の力を利用しながら整え、アクティブな活動を通した学びの場を作っていく意義について語った。

ディスカッション：

楽しいことのなかにこそ学びがある —— 上田さんの提案により、こども対象のワークショップで行った対話型鑑賞を大人の参加者全員が実践。続いて、上田さんが開発した立方体「ヌーキューブ」に対話型鑑賞を通して思ったことを書き込み、それをもとに周囲とコミュニケーションを図った。会話を楽しみながら自らの考えや思いを振り返るこのミニワークショップによって、参加者は「プレイフル・ラーニング」を体験することになった。

その後ディスカッションに移り、グループごとにゲストトークから得た感想や意見を交換した。ミニワークショップによってすでに気持ちはほぐれ、参加者同士のコミュニケーションも深まっていたことから、活発な議論が展開された。



〈こどもとアート〉の現場を考える —— 「これまで」と「これから」

作品や作家についての情報や研究成果を伝えるだけではなく、アートを軸に様々な人が出会い、交流し、次の行動への活力を得る場となること。「〈こどもとアート〉の現場を考える」事業は美術館がそのような「つなぐ場」となることをめざして、平成24年度よりスタート。

美術館の未来の利用者としてとりわけ重要な〈こども〉をテーマとし、当初から、大阪新美術館建設準備室、江之子島文化芸術創造センター、〈こどもとアート〉を専門とする外部機関との連携により実施してきた。企画の段階から他者と交流しつながる事業であるといえる。

企画における連携は、戸惑いもあるが刺激的で、新たな発見をもたらす。ワークショップでは、外部機関による新たな視点から美術作品を活用することにより、学芸員が提示するものとは異なった魅力をこどもたちに伝えることができた。こどもたちにとっても、本物の美術作品と出会い、他のこどもの多様な感性に刺激を受ける場となったはずである。

また、トーク&ディスカッションでは、毎回全員参加のディスカッションプログラムを設け、一方的に知識を得るのではなく、思いや感想、疑問を言葉として表現し、意見を交わす場を創出してきた。具体的な問題とその解決方法を議論するのを絞った内容とはしていないが、熱心な議論からは、ゲストのトーク内容はもとより、ディスカッションを通してさまざまな気づきがあることがうかがわれる。アートを軸にして多様な人々が集まり、出会う場としての美術館。

「つなぐ」機能の可能性を、将来的にはより幅広い対象にも広げたい。



(学芸員 高柳有紀子)

〈地域と生きるデザイン〉ワークショップ

大阪新美術館は、国内有数の規模を誇るデザインコレクションを収蔵し、アート（美術）とともにデザインを活動分野の主軸におく。文化と経済をつなぐデザインの多彩な動向や成果を伝えていくだけではなく、デザイン本来の目的への理解が進まない現況に対する改善の取り組みも検討している。〈地域と生きるデザイン〉ワークショップは、特定の地域を対象にその地に住む中学生と幅広く活躍する現役のデザイナーが、課題に対する創造的な解決（デザイン）をめざして協働する試行的事業である。

長吉六反中学校ワークショップ

長吉中央商店街 × 建築家・編集者・グラフィックデザイナー

平成 27 年 6 月 22 日(月)・7 月 3 日(金)・7 月 6 日(月)・7 月 10 日(金)

講師：

家成俊勝(建築家 dot architects)

高岡伸一(建築家 高岡伸一建築設計事務所)

中村征士(アートディレクター 広告代理店勤務)

藤本和剛(編集者 京阪神エルマガジン社)

増永明子(グラフィックデザイナー マスナガデザイン部)

松村貴樹(編集者 IN/SECTS)

担当教諭：惣内千裕(美術教諭 大阪市立長吉六反中学校)

対象：長吉六反中学校2年生(1組、2組)

会場：長吉六反中学校、長吉中央商店街

ワークショップ協力：長吉中央商店街



ワークショップの目的と方法

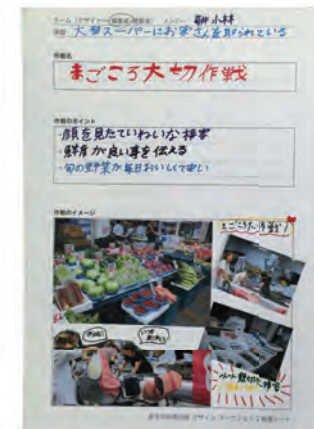
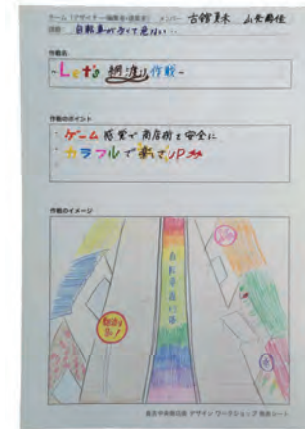
「デザインとは何か？」まずそのことを考えるきっかけづくりが、ワークショップの目的である。中学生にとって身近で具体的、そして共有しやすい課題とは何か——グラフィックデザイン、本の編集、建築の3分野各2名、計6名のデザイナーが対象地域である平野区長吉六反地域を訪れ、事前に検討を重ねた。その結果、3分野のデザイナーがクラス別に2つのチームを組み、長吉中央商店街でのフィールドワークを含む3時間のワークショップ(授業)を行った。

ワークショップの内容

1組

「課題を解決する」というデザインの目的を、効果的な実例を紹介しつつ解説した後、商店街から3つの相談を受けたという想定で、解決策を考える授業構成。グラフィックデザイン・編集・建築の3つのアプローチに沿って生徒を3班に分け、さらに各班を3つのグループに分けて、各グループが1つの相談を担当。計9つの解決策を案出するプログラムである。

商店街でのフィールドワークでヒントを探し集め、それをもとに編み出した解決策を「作戦」としてプレゼンシートにまとめ、発表した。米穀店のおにぎりキャラクターを考えたり、歩道にカラフルな自転車専用道を設けたりと、多彩なアイデアとデザイン表現が生みだされた。



2組

「ひと」「もの」「こと」「場所」を“つなぐ”ことによって課題を解決するという方法論を実践。生徒ひとりひとりが、自分の好きな「こと」に関係する「もの」を持ち寄り、その「もの」と商店(場所)をどう“つなぐ”かを、商店街でのフィールドワークを通じて具体的に考える授業を行った。

生徒は無作為に割り当てられた商店に、各自用意した「もの」を持っておもむき、クリエイターや友人、その店の人などの協力を得ながら、自分・もの・店のつながりを示す写真を撮影。3時間目にはその写真を使って、自分の好きな「こと」と店とのつながりを表現したポスターを制作し、発表した。単に自分の好きなことを描くのではなく、外部とのつながりを想像し、そのつながりが他者に伝わるよう表現することの難しさに最初は戸惑う生徒も少なくなかったが、試行錯誤の後、それぞれの個性が際立つポスターに仕上がった。



公開ディスカッション

— デザインのきのうとあした：デザインワークショップの可能性

平成 27 年 12 月 12 日(土)

登壇者：

家成俊勝(建築家 dot architects)

惣内千裕(美術教諭 大阪市立長吉六反中学校)

高岡伸一(建築家 高岡伸一建築設計事務所)

堂野智史(メビック扇町所長)

中村征士(アートディレクター 広告代理店勤務)

藤本和剛(編集者 京阪神エルマガジン社)

増永明子(グラフィックデザイナー マスナガデザイン部)

松村貴樹(編集者 IN/SECTS)

参加者：80名

会場：クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町 交流スペース3

中学生によるワークショップ制作物展示：同会場 交流スペース1

長吉六反中学校と長吉中央商店街でのワークショップ授業について、講師を務めたクリエイターたちが各クラスのプロプログラムを説明し、実際の授業の様子を紹介した。続いて、授業を担当した美術教諭が、日常的に生徒たちと接し指導する立場からワークショップを振り返った。その後、メビック扇町の所長が加わり、全員でデザインワークショップについて議論。クリエイターたちの率直な感想、活動の意義、今後の展開の可能性や希望、学校教育の現状や問題点とその対処などについて多くの意見が交わされ、活発なディスカッションとなった。

会場からは教育関係者による現場に即した質問や、活動を評価し継続を期待する声が発せられ、学校におけるデザインワークショップへの関心の高さが示された。学校というやや閉じられた環境での試行を、公開ディスカッションを通して広く周知することで、新たな可能性を生み、より多くの人々の注目を集めることができた。



〈地域と生きるデザイン〉ワークショップを終えて

デザインの基本的な考え方に触れるという点で成果があった一方、「美術」の枠内で行うことの限界や授業時間の少なさなど、学校でのデザイン教育に関わる課題も浮き彫りとなった。公開ディスカッション参加者の声からも、デザインワークショップへの関心と期待の高さがうかがわれ、今回の「テストケース」を今後につなげていくことの重要性を感じた。

(学芸員 三井知行)

区役所連携／ 新美術館×図書館わくわくコラボ

アートを日常に—— 4年目となる図書館連携、3年目となる区役所連携は、地域資源とアートを融合し、地域に新しいアートの場をつくり、アートの新しい魅力を発掘していく試みである。

〈Wikipedia ARTS〉大阪新美術館コレクション

平成 27 年 8 月 30 日(日)

講 師：菅谷富夫(大阪新美術館建設準備室 研究主幹)

参加者：40名

会 場：大阪市立中央図書館 5階中会議室



「ウィキペディアアーツ」は、参加者が地域の文化芸術について調べ、ウェブ上のフリー百科事典「ウィキペディア」の記事にまとめるイベントである。このイベントが中央図書館で開催されることになり、調査対象とする大阪市の芸術資源に大阪新美術館コレクションを取り上げるようになった。イベントでは、記事編集・著作権などの説明に続き、学芸員が現代美術を中心にコレクションの特長についてレクチャー。その後、約 5 人のグループに分かれて調査するアーティストを決め、図書館の用意した図書・資料をもとにリサーチを実施。ウィキペディアの新規項目として 6 アーティストを追加、1 名のアーティストの既存項目に筆を加える結果となった。

住吉あらかると — 今井祝雄ワークショップ「子どもと大人の対面画」 — 今井祝雄トークショー「アートの感性を育む生きかた」 — 〈滝川雅弘 Duo〉ジャズコンサート

平成 28 年 1 月 30 日(土)〈ワークショップ〉— 31 日(日)〈トークショー・コンサート〉

講 師：今井祝雄

ワークショップ対象・参加者：小学生以上のこども1名と大人1名のペア10組

ワークショップ会場：住吉区民センター集会室4

トークショー・コンサート参加者：110名

会 場：住吉区役所4階大会議室

住吉図書館との連携では、新美術館コレクションのアーティストから、もと具体美術協会会員で同区在住の今井祝雄さんに焦点をあてたイベントを検討していた。一方、住吉区役所でも区にゆかりの芸術家によるイベントを毎月開催していることから、今回は区役所とも連携をとり、これまで別個に実施してきた地域連携と図書館連携の同時開催を実現した。

今井さんは区内で長らく児童画の教室を開いていた経験から、こどもと大人が向かいあって顔を描きあうワークショップを企画。さらに、半世紀におよぶ自身の活動とその意味について振り返るトークショーを実施した。また、具体美術協会と時代の空気を共有し、今井さんをはじめ具体会員に愛好家の多かったモダンジャズのコンサートを開いた。



あべの学セミナー ― 菅橋彦の世界：阿倍野ゆかりの日本画の巨匠

平成 28 年 3 月 6 日(日)

講師：小川知子(大阪新美術館建設準備室 主任学芸員)

参加者：53名

会場：大阪市立阿倍野図書館 多目的室

菅橋彦は日本画家として初めて日本芸術院恩賜賞を受賞した、大阪の誇る芸術家。40年以上も阿倍野区民であったこの画家を地元で顕彰するレクチャーを実施した。歴史画や浪速風俗画を得意とし、「もっとも大阪らしい画家」とも呼ばれた彼の作品を紹介するとともに、困窮を極めた少年時代や有名芸妓との結婚など、逸話の多いその生涯についても解説。さらに墓所など区内・市内にある画家ゆかりの地も取り上げ、より地域に光をあてる内容となった。また阿倍野図書館内では、市立中央図書館に収蔵されている複製色紙などの資料の展示や、デジタルアーカイブなど図書館で利用できるコンテンツの紹介が行われた。



外部研修生(インターン)の声

平成27年度、大阪新美術館建設準備室は、連携以外の事業を含め3事業4名の外部研修生を受け入れた。市民キュレーターワークショップ事業に参加した外部研修生から、事業の発展や改善について意見を募った。

ワークショップでは市民キュレーターの意向をほぼすべて尊重していた。市民キュレーターはやるべきことのしっかりとした枠組みがあるからこそ自由に表現できたはず。わかりやすいワークショップの流れと主催側の市民を受け入れようとする体制が良かったのではないだろうか。

このワークショップは少人数が長期間行うために、どうしても閉鎖的になる。HPにワークショップの過程をレポートし、掲載しているということは、記録以外にこの事業の情報を広める効果も期待しているのでは。その点では、HPデザインのわかりづらさが問題だ。HPデザインの改善と告知方法の見直しは必要だと思う。展覧会に訪れる人が少ないことも気になった。ごくわずかな市民だけが参加する事業ではもったいないし、展覧会により多くの人が興味を持ってもらう機会になることが理想であろう。

(市民キュレーターワークショップ事業 外部研修生：本原暁菜)

今回市民キュレーターワークショップに参加させていただいたが、まず来場者が少なすぎるのが問題だ。ワークショップの目的は美術館と学芸員への理解を深めることだが、来場者がいなければ展覧会の完成としては不十分なのではないか。宣伝不足が原因のひとつとして考えられる。そこで、さまざまなイベントを行う江之子島文化芸術創造センターとコラボレーションしてはどうだろうか。展覧会の開催期間にセンターのイベントを行うだけでも、ふらりと立ち寄る人で来場者数は伸び知名度も上がるだろう。

上記のような課題はあるが、見知った学芸員がいて、自分が実際に展示したコレクションへの愛着があれば、将来美術館が完成した際、ワークショップ参加者は館の心強いサポーターになってくれるであろうし、この事業が未来の市民と美術館の協同に向けての一步になったのではないだろうか。

(市民キュレーターワークショップ事業 外部研修生：山田美和)



<http://www.city.osaka.lg.jp/contents/wdu120/artrip/>
グタイピナコテカWEB版や毎月更新される「今月の1点」が加わり、
ますます充実した大阪新美術館コレクション特設サイト<アートリップ・ミュージアム>

平成27年度 大阪新美術館建設準備室 連携報告書

編集・発行：大阪新美術館建設準備室
〒553-0005 大阪市福島区野田1-1-86 8階
大阪市経済戦略局文化部内
TEL：06-6469-5189 FAX：06-6469-3897

助 成：一般財団法人 地域創造
発 行 日：平成28年 3月28日
表紙デザイン：増永明子（マスナガデザイン部）
印 刷：株式会社高速オフセット